(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7311379号
(P7311379)

(45)発行日　令和5年7月19日(2023.7.19)

(24)登録日　令和5年7月10日(2023.7.10)

(51)国際特許分類

Ｅ０４Ｈ　1/02　(2006.01)		Ｅ０４Ｈ	1/02	
Ｅ０４Ｂ　7/02　(2006.01)		Ｅ０４Ｂ	7/02	５０２

ＦＩ

請求項の数　6　（全21頁）

(21)出願番号　特願2019-180303(P2019-180303)
(22)出願日　令和1年9月30日(2019.9.30)
(65)公開番号　特開2021-55430(P2021-55430A)
(43)公開日　令和3年4月8日(2021.4.8)
審査請求日　令和3年9月29日(2021.9.29)
特許法第３０条第２項適用　1）令和１年６月１７日 ミサワホーム株式会社が自社ウェブサイトにて公開　2）令和１年６月２８日、６月３０日、７月４日、７月１２日 ミサワホーム株式会社がＴｗｉｔｔｅｒにて公開　3）令和１年６月３０日 ミサワホーム株式会社がＹｏｕＴｕｂｅにて公開　4）令和１年６月３０日 ミサワホーム株式会社がＹｏｕＴｕｂｅにて公開　5）令和１年６月３０日 テレビ朝日系列局がミサワホーム株式会社提供のテレビＣＭにて公開　6）令和１年８月１０日 ミサワホーム株式会社が栃木県宇都宮市ゆいの杜六丁目９番２５にて公開

(73)特許権者　307042385
ミサワホーム株式会社
東京都新宿区西新宿二丁目４番１号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船 博司
(72)発明者　中村 諒太
東京都新宿区西新宿２丁目４番１号 ミサワホーム株式会社内
審査官　兼丸 弘道

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　建物

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

下階の部屋と、上下階を接続するとともに下階から上階に吹き抜ける吹抜け空間とされた階段室と、が下階の第一仕切壁を介在させた状態で隣り合って配置されており、

前記下階の部屋は、前記第一仕切壁と対向するとともに当該第一仕切壁と平行に配置された第一外壁に面しており、

前記階段室は、下階の床よりも半階上がった位置に設けられた踊り場を有しており、

前記第一外壁には第一高窓が設けられ、

前記第一仕切壁のうち前記踊り場と前記下階の部屋との間に位置する部分には第一室内窓が設けられ、当該第一室内窓の正面に前記第一高窓が配置されており、

前記第一高窓及び前記第一室内窓における上端部の高さ位置は、前記下階の部屋における天井の高さ位置と略等しく設定され、さらに、前記第一高窓の幅寸法は、前記第一室内窓の幅寸法よりも広く設定されており、

前記階段室における前記踊り場は、前記第一仕切壁と対向するとともに当該第一仕切壁と平行に配置された第三外壁に面し、前記第三外壁には、前記第一室内窓よりも上方に位置する採光窓が設けられており、

前記下階の部屋の上方に位置する複数の上階の部屋のいずれかと、前記階段室における前記踊り場と、が上階仕切壁を介在させた状態で隣り合って配置されており、

前記上階仕切壁は、側断面視において前記第一仕切壁と上下に連続するとともに当該第一仕切壁と同一直線上に配置され、前記上階仕切壁には第二室内窓が設けられており、

前記複数の上階の部屋には、上階のうち前記階段室の反対側に配置されて前記階段室における前記踊り場と隣り合っていない一方の部屋と、前記一方の部屋と前記階段室との間に位置し、前記上階仕切壁を介在させた状態で前記階段室における前記踊り場と隣り合って配置された他方の部屋と、が含まれ、
前記他方の部屋のうち前記上階仕切壁と直交して配置された外壁には、前記上階仕切壁における前記第二室内窓と直交方向に隣接する上階採光窓が設けられていることを特徴とする建物。

【請求項２】

請求項１に記載の建物において、

前記下階の部屋は、平面視において前記第一仕切壁及び前記第一外壁と直交して設けられた第二外壁に面しており、

前記第二外壁には第二高窓が設けられ、

前記第二高窓における上端部の高さ位置は、前記下階の部屋における天井の高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする建物。

【請求項３】

請求項１又は２に記載の建物において、

前記下階の部屋は、平面視において前記第一外壁と連続するとともに当該第一外壁と同一直線上に配置された第二仕切壁に面しており、

前記第二仕切壁は、前記下階の部屋と、下階の他の部屋とを仕切っており、

前記第二仕切壁には第三高窓が設けられ、

前記第三高窓における上端部の高さ位置は、前記下階の部屋及び前記下階の他の部屋における天井の高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする建物。

【請求項４】

請求項３に記載の建物において、
前記第一外壁に設けられた前記第一高窓の上方には庇が設けられており、
前記下階の部屋の天井における天井仕上げ材と、前記他の部屋の天井における天井仕上げ材と、前記庇の下面における仕上げ材は、同一の高さ位置に配置され、
前記下階の部屋の天井における天井仕上げ材に形成された直線状の模様の延長線上に、前記他の部屋の天井における天井仕上げ材に形成された直線状の模様が位置し、
前記下階の部屋の天井における天井仕上げ材に形成された直線状の模様の延長線上に、前記庇の下面における仕上げ材に形成された直線状の模様が位置していることを特徴とする建物。

【請求項５】

請求項１～４のいずれか一項に記載の建物において、
前記下階の部屋と、前記複数の上階の部屋と、前記階段室と、を含む建物本体を備え、
前記第一仕切壁及び前記上階仕切壁は、側断面視において、前記建物本体の前記第一外壁側から前記第三外壁側にかけての中心線よりも前記第三外壁側に寄った位置に設けられていることを特徴とする建物。

【請求項６】

請求項１～５のいずれか一項に記載の建物において、

前記下階の部屋と、前記複数の上階の部屋と、前記階段室と、を含む建物本体と、

前記建物本体の上端部に設けられた招き屋根形状の屋根と、を備えており、

前記下階の部屋は、前記建物本体の一面側に配置され、前記階段室は、前記建物本体の前記一面とは反対側の他面側に配置されており、

前記屋根は、

前記建物本体の一面側よりも他面側に寄って配置された棟部と、

前記棟部から前記建物本体の一面側に向かう下り勾配とされた第一屋根部と、

前記棟部から前記建物本体の他面側に向かう下り勾配とされた第二屋根部と、を有し、

前記第二屋根部は、前記第一屋根部よりも軒先端部までの長さが短く、かつ前記第一屋根部よりも急勾配に設定されており、

前記建物本体は、当該建物本体の他面側における軒高が、一面側における軒高よりも低く設定されており、
前記下階の部屋は、前記棟部よりも前記建物本体の一面側であって、かつ前記第一屋根部の下方に位置し、前記階段室は、前記棟部よりも前記建物本体の他面側であって、かつ前記第二屋根部の下方に位置していることを特徴とする建物。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、建物に関する。
【背景技術】
【０００２】
住宅等の建物の建築に際しては、建物本体内への採光性に充分に配慮する必要がある。さらに、居住者に対して開放感を与えることが可能な設計とすることも、居住性を高める上で重要な要素となっている。
特許文献１に記載の住宅は、外壁の一部が下階から上階に亘って外側に張り出した位置に設けられた張り出し外壁を備えており、当該張り出し外壁の内側の領域に室内階段が配置され、張り出し外壁と非張り出し外壁との間に採光部（採光用の大型の窓）が設けられた状態となっている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【文献】特開２００１－２２０９０３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、従来の住宅は、張り出し外壁と非張り出し外壁との間に設けられた採光部によって、室内階段が設けられた階段室における採光性を向上させることができる。しかしながら、階段室と当該階段室に隣接する部屋との間には窓が設けられていないため、階段室に隣接する部屋の採光性を向上させにくい場合がある。
さらに、階段室に採光用の大型の窓が形成されることで階段室自体の開放感を高めることはできるが、階段室と当該階段室に隣接する部屋との間には窓が設けられていないため、階段室に隣接する部屋に対して開放感を付与しにくい場合がある。
【０００５】
本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その課題は、階段室に隣接する部屋の採光性を向上させるとともに、階段室に隣接する部屋に開放感を付与することである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
請求項１に記載の発明は、建物１であって、例えば図１～図１３に示すように、下階の部屋（主居室２２）と、上下階を接続するとともに下階から上階に吹き抜ける吹抜け空間とされた階段室２７と、が下階の第一仕切壁２３を介在させた状態で隣り合って配置されており、
前記下階の部屋２２は、前記第一仕切壁２３と対向するとともに当該第一仕切壁２３と平行に配置された第一外壁９（一階正面外壁９）に面しており、
前記階段室２７は、下階の床よりも半階上がった位置に設けられた踊り場２９を有しており、
前記第一外壁９には第一高窓１１が設けられ、
前記第一仕切壁２３のうち前記踊り場２９と前記下階の部屋２２との間に位置する部分には第一室内窓３０が設けられ、当該第一室内窓３０の正面に前記第一高窓１１が配置されており、
前記第一高窓１１及び前記第一室内窓３０における上端部の高さ位置は、前記下階の部

屋２２における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定され、さらに、前記第一高窓１１の幅寸法は、前記第一室内窓３０の幅寸法よりも広く設定されており、

前記階段室２７における前記踊り場２９は、前記第一仕切壁２３と対向するとともに当該第一仕切壁２３と平行に配置された第三外壁（背面外壁１８）に面し、前記第三外壁１８には、前記第一室内窓３０よりも上方に位置する採光窓１９が設けられており、

前記下階の部屋２２の上方に位置する複数の上階の部屋３９，４３のいずれかと、前記階段室２７における前記踊り場２９と、が上階仕切壁４０を介在させた状態で隣り合って配置されており、

前記上階仕切壁４０は、側断面視において前記第一仕切壁２３と上下に連続するとともに当該第一仕切壁２３と同一直線上に配置され、前記上階仕切壁４０には第二室内窓４１が設けられており、

前記複数の上階の部屋３９，４３には、上階のうち前記階段室２７の反対側に配置されて前記階段室２７における前記踊り場２９と隣り合っていない一方の部屋（主寝室４３）と、前記一方の部屋４３と前記階段室２７との間に位置し、前記上階仕切壁４０を介在させた状態で前記階段室２７における前記踊り場２９と隣り合って配置された他方の部屋（第一上階部屋３９）と、が含まれ、

前記他方の部屋３９のうち前記上階仕切壁４０と直交して配置された外壁（左側外壁１３Ｌ）には、前記上階仕切壁４０における前記第二室内窓４１と直交方向に隣接する上階採光窓１６，１７が設けられていることを特徴とする。

【０００７】

請求項１に記載の発明によれば、第一仕切壁２３のうち踊り場２９と下階の部屋２２との間に位置する部分に設けられた第一室内窓３０の正面に、下階の部屋２２が面する第一高窓１１が配置され、第一高窓１１及び第一室内窓３０における上端部の高さ位置は、下階の部屋２２における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されているので、下階の部屋２２における天井２２ａは、第一高窓１１と第一室内窓３０との間に位置し、これら第一高窓１１と第一室内窓３０の双方から、屋外側からの光と踊り場２９側からの光を受けることになり、下階の部屋２２における採光性を向上できる。

さらに、下階の部屋２２から第一高窓１１を見れば屋外側に視線が抜け、第一室内窓３０を見れば踊り場２９側に視線が抜けるため、下階の部屋２２は、当該部屋２２にいる人に対し、天井２２ａから外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、下階の部屋２２に対して開放感を付与することができる。

また、下階の部屋２２の上方に位置する上階の部屋（他方の部屋３９）と、吹抜け空間とされた階段室２７と、が上階仕切壁４０を介在させた状態で隣り合って配置され、上階仕切壁４０は、側断面視において第一仕切壁２３と上下に連続するとともに当該第一仕切壁２３と同一直線上に配置され、上階仕切壁４０には第二室内窓４１が設けられているので、踊り場２９から第二室内窓４１を見れば上階の部屋３９に視線が抜け、踊り場２９から第一室内窓３０を見れば下階の部屋２２に視線が抜けることになる。そのため、踊り場２９は、当該踊り場２９にいる人に対し、上下階の双方に光景が広がるような印象を与えることができるので、踊り場２９に対して開放感を付与することができる。

また、階段室２７における踊り場２９は、第一仕切壁２３と対向するとともに当該第一仕切壁２３と平行に配置された第三外壁１８に面しており、第三外壁１８には、第一室内窓３０よりも上方に位置する採光窓１９が設けられているので、踊り場２９自体の採光性を向上できるのはもちろんのこと、第一室内窓３０を介して下階の部屋２２における採光性も向上できる。

さらに、下階の部屋２２から第一室内窓３０を見れば踊り場２９側に視線が抜け、しかも、その先にある採光窓１９も視界に入ることになり、屋外側にも視線が抜けることになる。そのため、下階の部屋２２は、当該部屋２２にいる人に対し、外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、下階の部屋２２に対して付与される開放感が更に高まることになる。

【０００８】

請求項２に記載の発明は、例えば図２，図１１，図１２等に示すように、請求項１に記載の建物１において、
前記下階の部屋２２は、平面視において前記第一仕切壁２３及び前記第一外壁９と直交して設けられた第二外壁１３Ｌに面しており、
前記第二外壁１３Ｌには第二高窓１４が設けられ、
前記第二高窓１４における上端部の高さ位置は、前記下階の部屋２２における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする。
【０００９】
請求項２に記載の発明によれば、第一仕切壁２３及び第一外壁９と直交して設けられた第二外壁１３Ｌに第二高窓１４が設けられ、第二高窓１４における上端部の高さ位置は、下階の部屋２２における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されているので、下階の部屋２２における天井２２ａは、第一高窓１１及び第一室内窓３０と直交する方向からも屋外の光を受けることになり、下階の部屋２２における採光性を更に向上できる。
さらに、下階の部屋２２から第二高窓１４を見れば、第一高窓１１及び第一室内窓３０とは異なる方向の屋外側に視線が抜けるため、下階の部屋２２は、当該部屋２２にいる人に対し、天井２２ａから外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、下階の部屋２２に対して付与される開放感が更に高まることになる。
【００１０】
請求項３に記載の発明は、例えば図４，図５，図８に示すように、請求項１又は２に記載の建物１において、
前記下階の部屋２２は、平面視において前記第一外壁９と連続するとともに当該第一外壁９と同一直線上に配置された第二仕切壁２１に面しており、
前記第二仕切壁２１は、前記下階の部屋２２と、下階の他の部屋（玄関２０）とを仕切っており、
前記第二仕切壁２１には第三高窓２１ｂが設けられ、
前記第三高窓２１ｂにおける上端部の高さ位置は、前記下階の部屋２２及び前記下階の他の部屋２０における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする。
【００１１】
請求項３に記載の発明によれば、平面視において第一外壁９と連続するとともに当該第一外壁９と同一直線上に配置された第二仕切壁２１に第三高窓２１ｂが設けられ、第三高窓２１ｂにおける上端部の高さ位置は、下階の部屋２２及び下階の他の部屋２０における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されているので、下階の部屋２２から第三高窓２１ｂを見れば下階の他の部屋２０側に視線が抜け、しかも、同一方向にある第一高窓１１も視界に入ることになり、屋外側にも視線が抜けることになる。そのため、下階の部屋２２は、当該部屋２２にいる人に対し、天井２２ａから外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、下階の部屋２２に対して付与される開放感が更に高まることになる。
【００１２】
請求項４に記載の発明は、例えば図５等に示すように、請求項３に記載の建物１において、
前記第一外壁９に設けられた前記第一高窓１１の上方には庇６ａが設けられており、
前記下階の部屋２２の天井２２ａにおける天井仕上げ材と、前記他の部屋２０の天井における天井仕上げ材と、前記庇６ａの下面における仕上げ材は、同一の高さ位置に配置され、
前記下階の部屋２２の天井２２ａにおける天井仕上げ材に形成された直線状の模様の延長線上に、前記他の部屋２０の天井における天井仕上げ材に形成された直線状の模様が位置し、
前記下階の部屋２２の天井２２ａにおける天井仕上げ材に形成された直線状の模様の延長線上に、前記庇６ａの下面における仕上げ材に形成された直線状の模様が位置していることを特徴とする。
【００１３】
請求項４に記載の発明によれば、下階の部屋２２又は踊り場２９側から、下階の部屋２

２の天井２２ａに視線を向けると、直線状の模様が、庇６ａ側と、他の部屋２０側に延長しているかのように見せることができる。これにより、下階の部屋２２を実際よりも広い部屋であるかのような印象を与えることが可能となっている。

【００１４】

請求項５に記載の発明は、例えば図７等に示すように、請求項１～４のいずれか一項に記載の建物１において、

前記下階の部屋２２と、前記複数の上階の部屋３９，４３と、前記階段室２７と、を含む建物本体を備え、

前記第一仕切壁２３及び前記上階仕切壁４０は、側断面視において、前記建物本体の前記第一外壁９側から前記第三外壁１８側にかけての中心線ＣＬよりも前記第三外壁１８側に寄った位置に設けられていることを特徴とする。

【００１６】

請求項６に記載の発明は、例えば図７，図１４等に示すように、請求項１～５のいずれか一項に記載の建物１において、

前記下階の部屋２２と、前記複数の上階の部屋３９，４３と、前記階段室２７と、を含む建物本体と、

前記建物本体の上端部に設けられた招き屋根形状の屋根２と、を備えており、

前記下階の部屋２２は、前記建物本体の一面側（正面側：一階正面外壁９側）に配置され、前記階段室２７は、前記建物本体の前記一面とは反対側の他面側（背面側：背面外壁１８側）に配置されており、

前記屋根２は、

前記建物本体の一面側よりも他面側に寄って配置された棟部２ｃと、

前記棟部２ｃから前記建物本体の一面側に向かう下り勾配とされた第一屋根部２ａと、

前記棟部２ｃから前記建物本体の他面側に向かう下り勾配とされた第二屋根部２ｂと、を有し、前記第二屋根部２ｂは、前記第一屋根部２ａよりも軒先端部までの長さが短く、かつ前記第一屋根部２ａよりも急勾配に設定されており、

前記建物本体は、当該建物本体の他面側における軒高が、一面側における軒高よりも低く設定されており、

前記下階の部屋２２は、前記棟部２ｃよりも前記建物本体の一面側であって、かつ前記第一屋根部２ａの下方に位置し、前記階段室２７は、前記棟部２ｃよりも前記建物本体の他面側であって、かつ前記第二屋根部２ｂの下方に位置していることを特徴とする。

【００１７】

請求項６に記載の発明によれば、屋根２は、建物本体の一面側よりも他面側に寄って配置された棟部２ｃと、棟部２ｃから建物本体の一面側に向かう下り勾配とされた第一屋根部２ａと、棟部２ｃから建物本体の他面側に向かう下り勾配とされた第二屋根部２ｂと、を有し、第二屋根部２ｂは、第一屋根部２ａよりも軒先端部までの長さが短く、かつ第一屋根部２ａよりも急勾配に設定されているので、第二屋根部２ｂを、斜線制限に対応させることが可能となる。しかも、第一屋根部２ａにおける上面の面積は、第二屋根部２ｂにおける上面の面積よりも広く設定されることになるので、例えば棟部２ｃが、建物本体の一面側から他面側にかけての方向の中心線ＣＬ上に位置する場合又は当該中心線ＣＬよりも他面側に寄った位置にある場合に比して、太陽電池モジュールの搭載量を増加させることができる。

また、建物本体は、当該建物本体の他面側における軒高が、一面側における軒高よりも低く設定されているので、例えば棟部２ｃが、建物本体の上記の中心線ＣＬ上に位置する場合又は当該中心線ＣＬよりも他面側に寄った位置にある場合に比して、建物本体における外皮面積を小さくしやすくすることができ、建物本体における断熱性能の向上を図ることができる。

さらに、下階の部屋２２は、棟部２ｃよりも建物本体の正面側であって、かつ第一屋根部２ａの下方に位置し、階段室２７は、棟部２ｃよりも建物本体の背面側であって、かつ第二屋根部２ｂの下方に位置しているので、例えば棟部２ｃが、建物本体の上記の中心線

ＣＬ上に位置する場合又は当該中心線ＣＬよりも他面側に寄った位置にある場合に比して、階段室２７の上方に設けられる空間（吹抜け空間の上部空間、ロフト５０）の容積を大きくすることが可能となる。

【発明の効果】

【００１８】

本発明によれば、階段室に隣り合う部屋の採光性を向上させるとともに、階段室に隣り合う部屋に開放感を付与することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１９】

【図１】建物を示す正面図である。

【図２】建物を示す左側面図である。

【図３】建物を示す背面図である。

【図４】建物の１階を示す断面図である。

【図５】建物の１．５階を示す断面図である。

【図６】建物の２階を示す断面図である。

【図７】図１におけるＡ－Ａ線断面図である。

【図８】図２におけるＢ－Ｂ線断面図である。

【図９】図２におけるＣ－Ｃ線断面図である。

【図１０】踊り場を上方から見下ろした場合の斜視図である。

【図１１】踊り場から主居室側を見た場合の斜視図である。

【図１２】主居室から踊り場側を見上げた場合の斜視図である。

【図１３】踊り場から上方の第二室内窓を見上げた場合の斜視図である。

【図１４】建物の変形例を示す縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００２０】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。ただし、以下に述べる実施形態には、本発明を実施するために技術的に好ましい種々の限定が付されているが、本発明の技術的範囲を以下の実施形態及び図示例に限定するものではない。

なお、以下の実施形態及び図示例における方角は、あくまでも説明の便宜上設定したものである。本実施形態における建物の正面は南（図中の「Ｓ」）を向き、背面は北（図中の「Ｎ」）を向き、右側面は東を向き、左側面は西を向く。

【００２１】

各図において符号１は、建物を示す。この建物１は戸建て住宅であり、１階と、１階から半階上がった１．５階と、２階のそれぞれに部屋を有する建物本体と、当該建物本体の上端部に設けられ、正面に向かって流れる第一屋根部２ａ及び背面に向かって流れる第二屋根部２ｂを有する招き屋根形状の屋根２と、を備えている。

【００２２】

〔建物の外周部について〕

建物本体正面には、図１に示すように、建物本体の右側において他の正面外壁よりも前方に位置するタイル外壁３が設けられている。また、タイル外壁３の高さ方向中央部には、当該タイル外壁３の幅方向中央から右側にかけて水平に延びる庇３ａが設けられている。

タイル外壁３のうち庇３ａの下方に位置する外壁４は、タイル外壁３における他の部分よりも奥まった状態（室内側に後退した状態）に設けられた玄関外壁４とされており、玄関ドア４ａが設けられた玄関開口部が形成されている。また、玄関外壁４が奥まって配置されている分の屋外側スペースは、玄関ポーチ５とされている。

また、タイル外壁３の左側端部には、後述する二階正面外壁６及び一階正面外壁９に接続される左側壁３Ｌが設けられ、タイル外壁３の右側端部には、建物本体の右側面に接続される右側壁３Ｒが設けられている。そして、タイル外壁３と左右の側壁３Ｌ，３Ｒは、建物本体の一階から２階における高さ方向中央付近までの高さに設定されている。さらに、２階部分においてタイル外壁３と左右の側壁３Ｌ，３Ｒによって囲まれた箇所は、バル

コニー８とされている。

【００２３】

建物本体正面には、２階部分の正面に位置し、かつタイル外壁３よりも建物１背面側に配置された二階正面外壁６が設けられている。この二階正面外壁６は、建物本体の幅方向左側端部から右側端部までの幅広さに設定されている。二階正面外壁６のうちバルコニー８に面する部分の外壁７は、二階正面外壁６における他の部分よりも奥まった状態（室内側に後退した状態）に設けられており、人の出入りが可能な掃き出し窓７ａが設けられた開口部が形成されている。

また、二階正面外壁６の下端部には、タイル外壁３における左側壁３Ｌから建物１における左側面よりも側方に突出する庇６ａが設けられている。

【００２４】

さらに、建物本体正面には、二階正面外壁６における庇６ａの下方に位置し、かつ建物本体中央から左側にかけて一階正面外壁９が設けられている。一階正面外壁９は、大部分に開口部１０が形成されるとともに後述する各窓が設けられた外壁とされており、一階正面外壁９の左側端部には、前方に突出する袖壁（後述する左側外壁１３Ｌの１階部分における前方突出端部）が設けられている。

一階正面外壁９に形成された開口部１０には、中央において上下方向に設けられた縦サッシ枠９ａと、縦サッシ枠９ａの上部から左右に伸びる横サッシ枠９ｂと、が設けられており、４つの開口部１０ａ，１０ｂ，１０ｃ，１０ｄに仕切られた状態となっている。なお、これら縦横のサッシ枠９ａ，９ｂは、目板とも呼称される。

【００２５】

４つの開口部１０ａ，１０ｂ，１０ｃ，１０ｄのうち、上側左右の開口部１０ａ，１０ｂには、第一高窓１１がそれぞれ設けられている。

本実施形態における第一高窓１１は嵌め殺しの窓であり、上側左右の開口部１０ａ，１０ｂに嵌め込まれて設けられる矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。

４つの開口部１０ａ，１０ｂ，１０ｃ，１０ｄのうち、下側左右の開口部１０ｃ，１０ｄには、人の出入りが可能な掃き出し窓１２がそれぞれ設けられている。

本実施形態における掃き出し窓１２は、下側左右の開口部１０ｃ，１０ｄを開放又は閉塞する引き違い式の窓であり、矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。

【００２６】

なお、本実施形態においては、上側左右の開口部１０ａ，１０ｂに設けられた第一高窓１１を嵌め殺しの窓としたが、これに限られるものではなく、開閉式の窓でもよい。

また、下側左右の開口部１０ｃ，１０ｄに設けられた掃き出し窓１２を引き違い式の窓としたが、これに限られるものではなく、その他の開閉方式を採用した窓でもよい。

【００２７】

一階正面外壁９の大部分に形成された開口部１０は、人の出入りが可能な引き違い式の掃き出し窓１２が左右に並んで設けられ、その上に第一高窓１１が左右に並んで設けられている。そのため、建物１において最も開口面積の広い大開口として、建物正面に、開放的な特徴を付与できるようになっている。

【００２８】

建物本体左側面は、図２に示すように、上端部が屋根２の形状に倣って形成された左側外壁１３Ｌによって構成されている。なお、この左側外壁１３Ｌの１階部分における前方突出端部は、一階正面外壁９における袖壁として機能している。

左側外壁１３Ｌには、建物本体の１階部分に相当する位置に、上下二連の窓１４，１５が設けられている。上側に位置する窓１４は、一階正面外壁９における第一高窓１１と等しい高さ位置に配置された第二高窓１４とされている。下側に位置する窓１５は、一階正面外壁９における掃き出し窓１２と等しい高さ位置に配置されている。

これらの窓１４，１５は、嵌め殺しの窓であり、左側外壁１３Ｌに形成された開口部に

嵌め込まれて設けられる矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。

【００２９】

また、左側外壁１３Ｌにおける建物本体の２階部分に相当する位置に、上下二連の二階採光窓１６，１７が設けられている。これら二階採光窓１６，１７によって、建物本体の２階部分における採光が可能となっている。また、これら二階採光窓１６，１７と、上記の上下二連の窓１４，１５は、上下方向に並んで配置されている。

上側の二階採光窓１６は、縦すべり出し窓とされており、開閉式のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。

下側の二階採光窓１７は、嵌め殺しの窓であり、左側外壁１３Ｌに形成された開口部に嵌め込まれて設けられる矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。

【００３０】

建物本体右側面は、図４～図６，図８，図９に示すように、右側外壁１３Ｒによって構成されている。この右側外壁１３Ｒも、左側外壁１３Ｌと同様に、上端部が屋根２の形状に倣って形成されている。

また、右側外壁１３Ｒにおける正面側端部は、上記のタイル外壁３における右側壁３Ｒと一体的に設けられている。より詳細には、右側外壁１３Ｒよりも右側壁３Ｒの方が右側に突出して設けられている。

【００３１】

建物本体背面は、図３に示すように、背面外壁１８によって構成されている。

背面外壁１８には、建物本体の１．５階部分に相当する位置に、左右二連の採光窓１９が設けられている。これら採光窓１９は、嵌め殺しの窓であり、背面外壁１８に形成された開口部に嵌め込まれて設けられる矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。

なお、本実施形態においては、採光窓１９を嵌め殺しの窓としたが、これに限られるものではなく、開閉式の窓でもよい。

【００３２】

〔建物の内部について〕

図４は、建物１の１階を示しており、上記の玄関ポーチ５が建物本体における東南のコーナー部付近に位置している。玄関外壁４を挟んで玄関ポーチ５の室内側には玄関２０が設けられている。

玄関２０は、玄関ポーチ５と床面が連続する玄関土間部２０ａと、玄関土間部２０ａの北側に位置し、かつ玄関土間部２０ａと床面が連続するシューズクローゼット２０ｂと、玄関土間部２０ａの西側に位置し、かつ玄関土間部２０ａよりも一段高い床面（１階の床レベル）の玄関ホール部２０ｃと、からなる。なお、この玄関２０の天井高は、後述する主居室２２と等しく設定されている。

【００３３】

玄関２０（玄関ホール部２０ｃ及び玄関土間部２０ａの一部）の北側には、平面視において一階正面外壁９と連続するとともに当該一階正面外壁９と同一直線上に配置された第二仕切壁２１が設けられている。

第二仕切壁２１は、玄関２０（すなわち、下階の他の部屋２０）と、玄関２０の北側に位置する主居室２２（すなわち、下階の部屋２２）とを仕切っており、この第二仕切壁２１には出入り用の開口部が形成されるとともに、当該開口部を開閉するドア２１ａが設けられている。

また、図８に示すように、ドア２１ａの上方には、一階正面外壁９における第一高窓１１と等しい高さ位置に配置された第三高窓２１ｂが設けられている。当該第三高窓２１ｂは、嵌め殺しの窓であり、第二仕切壁２１に形成された開口部に嵌め込まれて設けられる矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。

【００３４】

主居室２２は、リビングルームとダイニングルームとキッチンルームの機能を一室に併存させた一階の部屋であり、リビングルームのエリアと、ダイニングルームのエリアと、キッチンルームのエリアと、に漠然と分かれている。

また、主居室２２は、建物本体の左側外壁１３Ｌから右側外壁１３Ｒにかけて設けられている。つまり、建物本体の左右（東西）方向の幅いっぱい（幅広）に設けられている。奥行き方向（南北方向）の寸法も、建物本体の１階部分における奥行き方向の寸法の半分以上を占めている。さらに、この主居室２２は、天井２２ａを備え、建築基準法において居室として認められ得る天井高２．１ｍよりも高い天井高（具体的には、３０４０ｍｍ）に設定された高天井室とされている。すなわち、主居室２２は、建物１において最も大きく形成された大空間居室でとなっている。

【００３５】

主居室２２の北側には、主居室２２と、当該主居室２２よりも北側のエリアと、を仕切る第一仕切壁２３が設けられている。この第一仕切壁２３は、主居室２２に面する壁であるため（主居室２２を構成する壁であるため）、主居室２２の幅方向にも高さ方向にも広い壁となっている。

この第一仕切壁２３と、一階正面外壁９及び第二仕切壁２１は、互いに対向するとともに平行に配置されている。また、建物本体の左側面を構成する左側外壁１３Ｌは、平面視において第一仕切壁２３及び一階正面外壁９と直交して設けられている。さらに、建物本体の右側面を構成する右側外壁１３Ｒは、平面視において第一仕切壁２３と直交して設けられている。

【００３６】

主居室２２の北側エリアのうち西側（建物本体における北西のコーナー部）には、第一仕切壁２３を挟んで低天井収納空間２４が設けられている。この低天井収納空間２４は、天井高が０．８～１．４メートルに設定されている。また、第一仕切壁２３のうち主居室２２と低天井収納空間２４との間には、引き戸２４ａ付きの出入口が形成されている。

なお、低天井収納空間２４には、主居室２２で使用される物品の他、建物１内で使用される物品やその他の物品が収納される。換言すれば、主居室２２は、建物１の居住者が共用する部屋であるため、低天井収納空間２４には、居住者が共用する物品や、例えば掃除機などのように日常生活を送る上で必要な物品が収納される。

【００３７】

主居室２２の北側エリアのうち中央から東側（建物本体における北東のコーナー部）にかけては、浴室２６ａ、洗面所２６ｂ、トイレ２６ｃを有する水廻りスペース２６と、階段室２７における第一階段２８と、が設けられている。

より詳細に説明すると、北側エリアのうち中央から東側には、平面視において第一仕切壁２３及び背面外壁１８と対向するとともに平行に配置された第三仕切壁２５が設けられている。そして、この第三仕切壁２５と第一仕切壁２３との間に、水廻りスペース２６におけるトイレ２６ｃと、階段室２７における第一階段２８と、が配置されている。さらに、第三仕切壁２５と背面外壁１８との間に、浴室２６ａと、洗面所２６ｂと、が配置されている。第一仕切壁２３のうち主居室２２と第一階段２８の上り口との間には、引き戸２３ａ付きの出入口が形成されている。また、第三仕切壁２５のうち洗面所２６ｂと第一階段２８の上り口との間には、引き戸２５ａ付きの出入口が形成されている。

なお、第三仕切壁２５は、図５，図６，図９に示すように、上階に向かって伸び、階段室２７における手摺壁として機能している。

洗面所２６ｂの西側の一画には、壁が桝形に配置されて形成された洗濯機置き場が設けられており、その西側が上記の低天井収納空間２４とされている。なお、洗面所２６ｂと低天井収納空間２４との間の壁には、引き戸２４ｂ付きの出入口が形成されている。

【００３８】

第一階段２８を上った先には、図５に示すように、踊り場２９が設けられている。この踊り場２９は、低天井収納空間２４の上方に位置しており、１階の床面よりも半階上がった位置に設けられた中間床によって床面が構成されている。踊り場２９は、平面視におい

て一辺が２７３０ｍｍに設定された正方形状のスペースであり、四畳半程度の広さに設定されている。

踊り場２９における床面には、背面外壁１８に沿ってベンチ２９ａが設置され、左側外壁１３Ｌ側の壁面には、図７に示すように、縦横に複数の収納部を有する飾り棚２９ｂが取り付けられている。すなわち、踊り場２９は、ベンチ２９ａに座って過ごしたり、テーブルを置いて勉強や仕事をしたりすることが可能な、居住者のための共有スペースとして機能する。

また、踊り場２９を含む階段室２７は、下階から上階に吹き抜ける吹抜け空間とされており、踊り場２９における勾配天井である天井２９ｃの高さ位置（最高点）は、図７に示すように、上階の部屋である第一上階部屋３９（後述する）における天井３９ｃの高さ位置付近にまで達する。

【００３９】

なお、建物本体は、上記の北側エリアと、当該北側エリアよりも南側に位置する南側エリアと、にエリア分けされている。北側エリアと南側エリアの境界には、図７に示すように、第一仕切壁２３と、当該第一仕切壁２３の上方に連続する上階仕切壁４０（後述する）と、当該上階仕切壁４０の上方に位置する屋根２の棟部２ｃと、が設けられている。

また、棟部２ｃは、建物本体における南北方向の中心線ＣＬ（図２，図４，図５，図７参照）上に位置してはおらず、北側に寄った位置に配置されている。このような棟部２ｃの南側に上記の第一屋根部２ａが設けられ、北側に上記の第二屋根部２ｂが設けられている。本実施形態において、主居室２２は、第一屋根部２ａの下方に位置し、かつ第二屋根部２ｂの下方には位置しておらず、階段室２７は、第二屋根部２ｂの下方に位置し、かつ第一屋根部２ａの下方には位置していない。

さらに、第一屋根部２ａと第二屋根部２ｂは、互いに角度が異なるように設定されている。つまり、屋根２は、異種勾配屋根とされている。第一屋根部２ａは、第二屋根部２ｂに比して角度の緩い緩勾配の屋根とされている。第二屋根部２ｂは、第一屋根部２ａに比して角度の急な急勾配とされている。また、第二屋根部２ｂにおける勾配（角度）は、北側斜線制限や道路斜線制限、隣地斜線制限に対応している。また、東京都や神奈川県横浜市のような狭小地の多い地域では、「高度地区」と呼ばれる建築物の高さに関する規定があり、本実施形態における建物１は、当該規定を満たすように建築されている。より具体的には、本実施形態における建物１は、「東京２種高度」、「横浜３種高度」の規定を満たしている。そして、本実施形態における第二屋根部２ｂは、１分の１傾斜、すなわち、４５度の角度で傾斜している（１０寸勾配、矩勾配ともいう。）。

そして、第二屋根部２ｂの軒先端部は、第一屋根部２ａの軒先端部よりも下方に位置しており、これにより、建物本体は、北側における軒高が、南側における軒高よりも低く設定されている。このような構成とすることで、例えば建物本体における上記の中心線ＣＬ上に棟部２ｃが設けられる場合又は棟部２ｃが中心線ＣＬよりも南側に寄った位置にある場合に比して、建物本体における外皮面積（外気に直接接している部位の面積を指し、界壁及び界床を含む場合もある。）を小さくしやすくすることができ、建物本体における断熱性能の向上を図ることができる。なお、本実施形態における建物本体の場合、北側における軒高も、南側における軒高も７ｍを超えない（第１種低層居住専用地域および第２種低層居住専用地域に対応）。

また、以上のような構成を踏まえれば、第一屋根部２ａにおける上面の面積は、第二屋根部２ｂにおける上面の面積よりも広く設定されることになるので、例えば建物本体における上記の中心線ＣＬ上に棟部２ｃが設けられる場合又は棟部２ｃが中心線ＣＬよりも南側に寄った位置にある場合に比して、太陽電池モジュールの搭載量を増加させることができる。

吹抜け空間とされた本実施形態の踊り場２９は、図７に示すように、北側エリアに位置する第二屋根部２ｂの下方に設けられている。吹抜け空間とされた踊り場２９における上端部（上部空間）は、第二屋根部２ｂの小屋裏空間側に突出している。このような構成とすることで、例えば建物本体における上記の中心線ＣＬ上に棟部２ｃが設けられる場合又

は棟部２ｃが中心線ＣＬよりも南側に寄った位置にある場合に比して、踊り場２９における上端部（上部空間）の容積を大きくすることができる。

【００４０】

踊り場２９の南側の壁面は第一仕切壁２３によって構成され、第一仕切壁２３のうち当該踊り場２９と主居室２２との間に位置する部分には、図５，図７，図１０～図１３に示すように、第一室内窓３０が設けられている。

第一室内窓３０は、左右に並ぶ三連の嵌め殺しの窓であり、第一仕切壁２３に形成された開口部に嵌め込まれて設けられる矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。より詳細に説明すると、第一室内窓３０は、第一仕切壁２３に形成された開口部が、２本の柱状縦枠材３０ａによって左右に三つの開口部に仕切られ、これら三つの開口部に、上記のサッシ枠及びガラス板が設けられることで構成されている。

また、第一仕切壁２３と背面外壁１８は、互いに対向するとともに平行に配置され、背面外壁１８には、上記のように、建物本体の１．５階部分に相当する位置に左右二連の採光窓１９が設けられている。これらの採光窓１９は、踊り場２９に面しており、平面視においては、第一室内窓３０と対向するとともに平行に配置され、側断面視においては、下端部の高さ位置が、第一室内窓３０における上端部の高さ位置と略等しくなるように設定されている。

【００４１】

また、第一室内窓３０における上端部の高さ位置は、図７に示すように、一階正面外壁９における第一高窓１１の上端部の高さ位置、左側外壁１３Ｌにおける第二高窓１４の上端部の高さ位置、第二仕切壁２１における第三高窓２１ｂの上端部の高さ位置、主居室２２における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されている。

さらに、第一室内窓３０における下端部の高さ位置と、各高窓１１，１４，２１ｂにおける下端部の高さ位置と略等しく設定されている。

図５，図１１，図１２に示すように、第一室内窓３０は、左側外壁１３Ｌ側に寄って配置され、第二高窓１４は、第一仕切壁２３側に寄って配置されている。そのため、第一室内窓３０と第二高窓１４は、互いに隣り合った状態で、かつ斜めに対向する状態で配置されている。

【００４２】

なお、図５，図１２，図１３において、主居室２２に相当する位置と、庇６ａに相当する位置と、玄関ホール部２０ｃに相当する位置に、南北方向に伸びる無数の線が表現されている。これらの線は、主居室２２の天井２２ａにおける天井仕上げ材と、庇６ａの下面における仕上げ材と、玄関ホール部２０ｃの天井における天井仕上げ材の模様である。

より詳細に説明すると、これらの各仕上げ材は、板張り天井仕上げ材であり、隣り合う板の間には目地が形成される。すなわち、図５において南北方向に伸びる無数の線は、当該目地である。主居室２２に相当する位置と、庇６ａに相当する位置と、玄関ホール部２０ｃに相当する位置における各線は、ずれ無く揃った状態になっている。

そのため、主居室２２又は踊り場２９側から、主居室２２の天井２２ａに視線を向けると、天井仕上げ材の無数の線が、庇６ａ側と、玄関ホール部２０ｃ側に延長しているかのように見せることができる。これにより、主居室２２を実際よりも広い部屋であるかのような印象を与えることが可能となっている。

なお、踊り場２９に設置されたベンチ２９ａは、それほど高さ寸法が高く設定されていない（階段の一段分程度）ので、腰掛けた人の目線は低くなる。目線が低い状態で主居室２２に視線を向けると、第一高窓１１の屋外側まで抜けやすくなるので、踊り場２９側から主居室２２の天井２２ａに視線を向けたときの開放感が高くなる。

【００４３】

第一階段２８の北側であって、かつ踊り場２９の東側には、第一階段２８よりも段数の少ない（半分程度の段数の）第二階段３１が設けられている。直階段である第一階段２８と、踊り場２９と、直階段である第二階段３１は、折り返し階段として機能している。また、第一階段２８と第二階段３１との間には、第三仕切壁２５が介在しており、手摺壁と

して機能している。
　第二階段３１を上った先には、踊り場としてのホール３２が設けられている。ホール３２の北側にはトイレ３３及び手洗い部３３ａが設けられ、ホール３２の東側には、分電盤やその他の設備機器が設けられたバックヤード３４となっている。
　なお、ホール３２は、１階の床よりも半階上がり、２階の床よりも半階下がった位置の踊り場２９よりも上方に位置するが、２階の床よりも下方に位置するため、踊り場２９と共に、建物本体の１．５階に含まれているものとする。
　ホール３２の南側には、第一階段２８よりも段数の少ない（半分程度の段数の）廻り階段状の第三階段３５が設けられている。
【００４４】
　第三階段３５を上った先には、２階の床と同一床レベルに設定された二階踊り場３６が設けられている。二階踊り場３６は、図６，図９に示すように、第一階段２８の上方に配置されている。
　二階踊り場３６における西側端部には、ガラス板を用いたガラス手摺壁３７が設けられている。そして、このガラス手摺壁３７側からは、階段室２７における主要部が見下ろせるようになっている。すなわち、図１０に示すように、踊り場２９の様子と第一室内窓３０とを視界に入れることができる。視線の角度（見る向き）を変えれば、第一階段２８や第二階段３１、踊り場２９の天井２９ｃ、上階の部屋である第一上階部屋３９も視界に入れることができる。
　なお、階段室２７は、１階の第一階段２８から２階のガラス手摺壁３７までの各部と、手摺壁としての第三仕切壁２５を含んで構成されている。
【００４５】
　二階踊り場３６の南側には、図６に示すように、南北方向に伸びる廊下３８が設けられている。廊下３８の西側には、例えば子供部屋として使用される第一上階部屋３９が設けられている。廊下３８と第一上階部屋３９との間の壁には、ドア３９ａ付きの出入り用開口部が形成されている。なお、このような出入り用開口部の南側にはクローゼット３９ｂが設けられている。
【００４６】
　第一上階部屋３９は、左側外壁１３Ｌ及び上下二連の二階採光窓１６，１７に面し、主居室２２の上方に位置している。さらに、第一上階部屋３９は、吹抜け空間とされた階段室２７と、上階仕切壁４０を介在させた状態で隣り合って配置されている。上階仕切壁４０は、図７に示すように、側断面視において第一仕切壁２３と上下に連続するとともに当該第一仕切壁２３と同一直線上に配置されている。そして、上階仕切壁４０には、第二室内窓４１が設けられている。
【００４７】
　第二室内窓４１は、左右に並ぶ三連の嵌め殺しの窓であり、上階仕切壁４０に形成された開口部に嵌め込まれて設けられる矩形状のサッシ枠と、サッシ枠に保持される透明なガラス板と、を有する。より詳細に説明すると、第二室内窓４１は、上階仕切壁４０に形成された開口部が、２本の柱状縦枠材４１ａによって左右に三つの開口部に仕切られ、これら三つの開口部に、上記のサッシ枠及びガラス板が設けられることで構成されている。
　また、第二室内窓４１は、左側外壁１３Ｌ側に寄って配置され、二階採光窓１６，１７は、上階仕切壁４０側に寄って配置されている。そのため、第二室内窓４１と二階採光窓１６，１７は、互いに隣り合った状態で、かつ斜めに対向する状態で配置されている。これにより、二階採光窓１６，１７から第一上階部屋３９に入った光を、第二室内窓４１を通過して階段室２７（踊り場２９）に差し込ませることが可能となっている。
　なお、第二室内窓４１における上端部の高さ位置は、上側の二階採光窓１６における上端部の高さ位置と略等しく設定されている。
【００４８】
　第一室内窓３０における幅寸法と、第二室内窓４１における幅寸法は略等しく設定されている。さらに、互いの幅方向両端部も上下方向に伸びる同一直線上に位置している。

そして、図１３に示すように、第一室内窓３０における２本の柱状縦枠材３０ａと、第二室内窓４１における２本の柱状縦枠材４１ａと、が上下方向に伸びる同一直線上に位置している状態となっている。

これにより、踊り場２９から見た場合に、上下方向に隣り合う第一室内窓３０と第二室内窓４１との上下方向への連続性を高めることができるので、踊り場２９が吹抜け空間であることも相まって、踊り場２９にいる人に対して開放感を与えることができる。

【００４９】

廊下３８の東側には、例えば子供部屋として使用される第二上階部屋４２が設けられている。廊下３８と第二上階部屋４２との間の壁には、ドア４２ａ付きの出入り用開口部が形成されている。なお、第二上階部屋４２の北側にはクローゼット４２ｂが設けられている。

【００５０】

廊下３８の南側であって、かつ第一上階部屋３９の南側には、主寝室４３が設けられている。廊下３８と主寝室４３との間の壁には、ドア４３ａ付きの出入り用開口部が形成されている。なお、主寝室４３の東側であって、かつ第二上階部屋４２の南側にはクローゼット４３ｂが設けられている。

また、主寝室４３の東側であって、かつクローゼット４３ｂの南側には、バルコニー８前の憩いの場として利用したり、クローゼット４３ｂの前で衣装合わせを行ったり、洗濯物を室内干しする等、多目的に利用することが可能な多目的スペース４４が設けられている。

【００５１】

本実施形態における建物１は、１階の大部分を占める主居室２２と、１階から２階にかけて設けられた階段室２７と、が隣接して配置されており、階段室２７における１．５階の高さに設けられた踊り場２９と主居室２２とが、第一仕切壁２３に設けられた第一室内窓３０（すなわち、開口部）によって空間的な繋がりを持った状態となっている。

さらに、第一室内窓３０の正面には、主居室２２の空間によって隔てられた状態で、第一高窓１１が設けられており、これによって主居室２２が、天井２２ａの高さ位置にある窓１１，３０によって挟まれた状態となっている。そのため、主居室２２が、双方の窓１１，３０からの採光が可能となるだけでなく、建物１内に第一高窓１１の屋外側も含めた空間的な繋がりが形成された状態となっている。

また、踊り場２９を含む階段室２７は吹抜け空間となっているので、上階の部屋である第二室内窓４１（すなわち、開口部）によって、第一上階部屋３９も含む空間的な繋がりが建物１内に形成された状態となっている。

【００５２】

なお、本実施形態においては、嵌め殺し窓が多く採用されているが、引き違い式やその他の開閉方式を採用した開閉可能な窓を適宜採用してもよい。開閉式の窓を採用した場合は採光だけでなく、通風（通気）も可能となり、建物１における通風性（通気性）を向上できるので好ましい。さらに、この場合、建物１内での音も伝わりやすくすることができるので、階を跨いだ家族間でのコミュニケーションも行いやすくなる。

【００５３】

また、本実施形態においては、平面視において一階正面外壁９と第二仕切壁２１とが互いに連続するとともに同一直線上に配置されている、とし、側断面視において第一仕切壁２３と上階仕切壁４０とが上下に連続するとともに同一直線上に配置されている、とした。同様に、第一室内窓３０における２本の柱状縦枠材３０ａと、第二室内窓４１における２本の柱状縦枠材４１ａも上下方向に伸びる同一直線上に位置している、とした。

ここで、同一直線とは、あくまでも仮想的な直線を指すものであり、同一直線上に配置された一方と他方とが同一方向に揃った状態になっていることを意味している。

【００５４】

本実施の形態によれば、第一仕切壁２３のうち踊り場２９と主居室２２との間に位置する部分に設けられた第一室内窓３０の正面に、主居室２２が面する第一高窓１１が配置さ

れ、第一高窓１１及び第一室内窓３０における上端部の高さ位置は、主居室２２における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されているので、主居室２２における天井２２ａは、第一高窓１１と第一室内窓３０との間に位置し、これら第一高窓１１と第一室内窓３０の双方から、屋外側からの光と踊り場２９側からの光を受けることになり、主居室２２における採光性を向上できる。

さらに、主居室２２から第一高窓１１を見れば屋外側に視線が抜け、第一室内窓３０を見れば踊り場２９側に視線が抜けるため、主居室２２は、当該主居室２２にいる人に対し、天井２２ａから外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、主居室２２に対して開放感を付与することができる。

【００５５】

また、第一仕切壁２３及び一階正面外壁９と直交して設けられた第二外壁１３Ｌに第二高窓１４が設けられ、第二高窓１４における上端部の高さ位置は、主居室２２における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されているので、主居室２２における天井２２ａは、第一高窓１１及び第一室内窓３０と直交する方向からも屋外の光を受けることになり、主居室２２における採光性を更に向上できる。

さらに、主居室２２から第二高窓１４を見れば、第一高窓１１及び第一室内窓３０とは異なる方向の屋外側に視線が抜けるため、主居室２２は、当該主居室２２にいる人に対し、天井２２ａから外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、主居室２２に対して付与される開放感が更に高まることになる。

【００５６】

また、平面視において一階正面外壁９と連続するとともに当該一階正面外壁９と同一直線上に配置された第二仕切壁２１に第三高窓２１ｂが設けられ、第三高窓２１ｂにおける上端部の高さ位置は、主居室２２及び玄関２０における天井２２ａの高さ位置と略等しく設定されているので、主居室２２から第三高窓２１ｂを見れば玄関２０側に視線が抜け、しかも、同一方向にある第一高窓１１も視界に入ることになり、屋外側にも視線が抜けることになる。そのため、主居室２２は、当該主居室２２にいる人に対し、天井２２ａから外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、主居室２２に対して付与される開放感が更に高まることになる。

【００５７】

また、主居室２２の上方に位置する第一上階部屋３９と、吹抜け空間とされた階段室２７と、が上階仕切壁４０を介在させた状態で隣り合って配置され、上階仕切壁４０は、側断面視において第一仕切壁２３と上下に連続するとともに当該第一仕切壁２３と同一直線上に配置され、上階仕切壁４０には第二室内窓４１が設けられているので、踊り場２９から第二室内窓４１を見れば第一上階部屋３９に視線が抜け、踊り場２９から第一室内窓３０を見れば主居室２２に視線が抜けることになる。そのため、踊り場２９は、当該踊り場２９にいる人に対し、上下階の双方に光景が広がるような印象を与えることができるので、踊り場２９に対して開放感を付与することができる。

【００５８】

また、階段室２７における踊り場２９は、第一仕切壁２３と対向するとともに当該第一仕切壁２３と平行に配置された背面外壁１８に面しており、背面外壁１８には、第一室内窓３０よりも上方に位置する採光窓１９が設けられているので、踊り場２９自体の採光性を向上できるのはもちろんのこと、第一室内窓３０を介して下階の部屋２２における採光性も向上できる。

さらに、主居室２２から第一室内窓３０を見れば踊り場２９側に視線が抜け、しかも、その先にある採光窓１９も視界に入ることになり、屋外側にも視線が抜けることになる。そのため、主居室２２は、当該主居室２２にいる人に対し、外部に光景が広がるような印象を与えることができるので、主居室２２に対して付与される開放感が更に高まることになる。

【００５９】

〔変形例〕

なお、本発明を適用可能な実施形態は、上述した実施形態に限定されることなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。以下、変形例について説明する。以下に挙げる変形例は可能な限り組み合わせてもよい。また、以下の各変形例において、上述の実施形態と共通する要素については、共通の符号を付し、説明を省略又は簡略する。

【００６０】

上記の実施形態における階段室２７は、踊り場２９の天井２９ｃが、第一上階部屋３９の天井３９ｃの高さ位置付近にまで達する吹抜け空間とされていたが、本変形例においては、図１４に示すように、階段室２７の上方に、第一上階部屋３９から使用可能なロフト５０が配置された状態となっている。

【００６１】

より詳細に説明すると、踊り場４９における天井４９ｃの高さ位置は、第一上階部屋３９や第二上階部屋４２、主寝室４３を構成する上階床の高さ位置よりも高く設定されている。また、ロフト５０の天井高は、低天井収納空間２４と同様に、０．８～１．４メートルに設定されている。また、ロフト５０の天井５０ｃは、上記の実施形態における踊り場２９の天井２９ｃと同じ高さ位置に設定されている。

そして、招き屋根形状の屋根２が、建物本体における南北方向の中心線ＣＬの上方よりも北側に寄って棟部２ｃが配置され、第二屋根部２ｂが、第一屋根部２ａよりも急勾配とされ、かつ棟部２ｃから軒先端部までの長さも第一屋根部２ａよりも短くなっており、このような屋根２における第二屋根部２ｂの下方にロフト５０が配置されている。

【００６２】

本変形例によれば、例えば建物本体における上記の中心線ＣＬ上に棟部２ｃが設けられる場合又は棟部２ｃが中心線ＣＬよりも南側に寄った位置にある場合に比して、ロフト５０の容積を大きくすることができる。さらに、第二屋根部２ｂの軒先端部は、第一屋根部２ａの軒先端部よりも下方に位置しており、これにより、建物本体は、北側における軒高が、南側における軒高よりも低く設定されているので、建物本体における外皮面積を小さくしやすくすることができ、建物本体における断熱性能の向上を図ることができる。しかも、第一屋根部２ａにおける上面の面積が、第二屋根部２ｂにおける上面の面積よりも広く設定されることになるので、太陽電池モジュールの搭載量を増加させることができる。

【符号の説明】

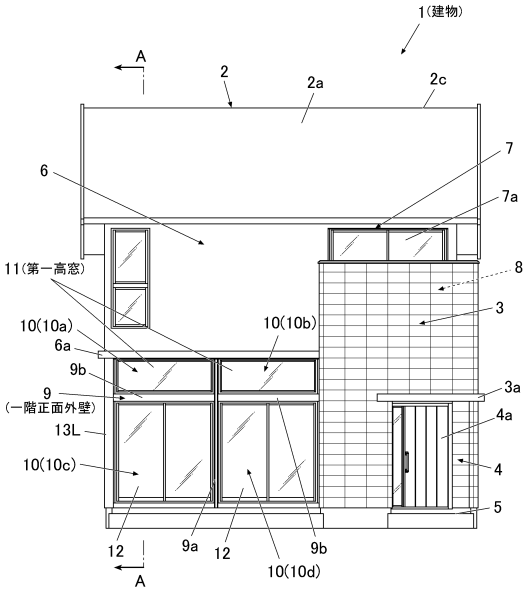
【００６３】

１　建物
９　一階正面外壁
１０　開口部
１０ａ　開口部
１０ｂ　開口部
１１　第一高窓
１３Ｌ　左側外壁
１４　第二高窓
１６　二階採光窓
１８　背面外壁
１９　採光窓
２０　玄関
２１　第二仕切壁
２１ｂ　第三高窓
２２　主居室
２２ａ　天井
２３　第一仕切壁
２４　低天井収納空間
２５　第三仕切壁
２６　水廻りスペース

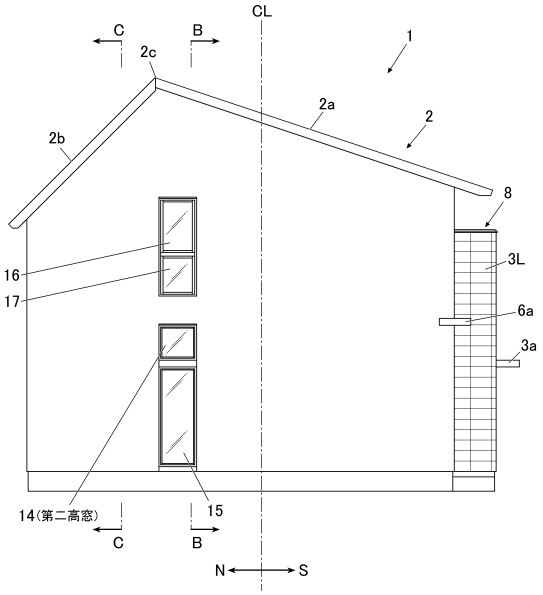
２７　階段室
２８　第一階段
２９　踊り場
３０　第一室内窓
３０ａ　柱状縦枠材
３１　第二階段
３９　第一上階部屋
４０　上階仕切壁
４１　第二室内窓
４１ａ　柱状縦枠材

【図面】

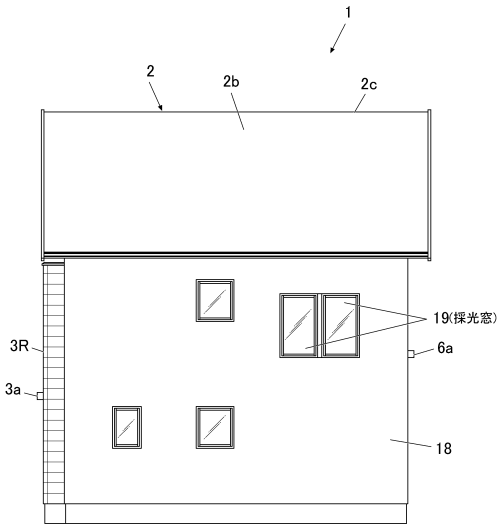
【図１】



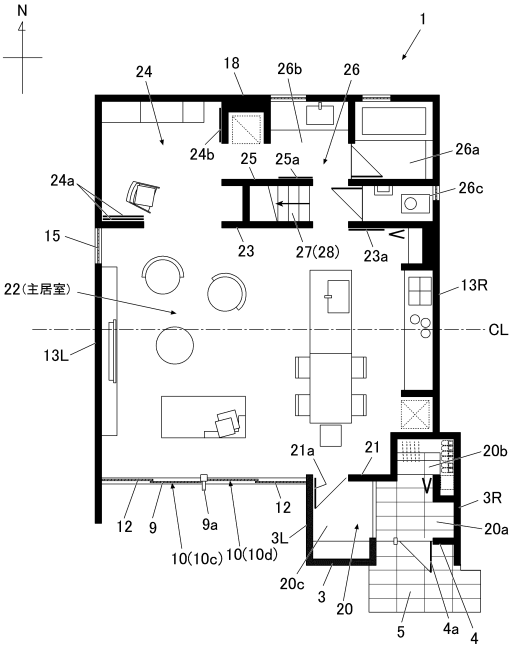
【図２】



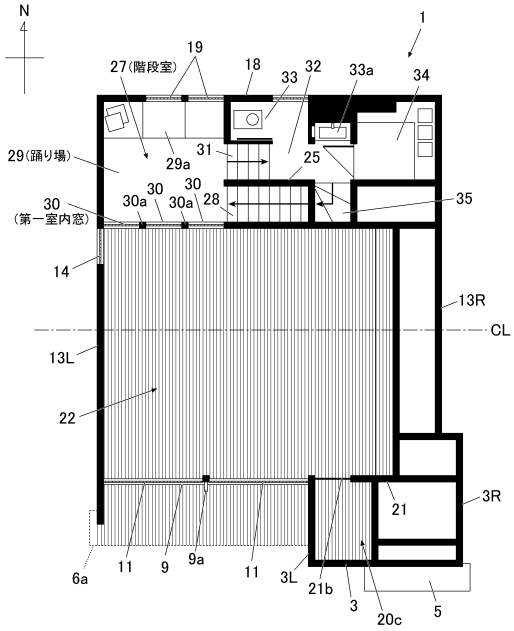
【図３】


1
2
2b
2c
19(採光窓)
3R
6a
3a
18

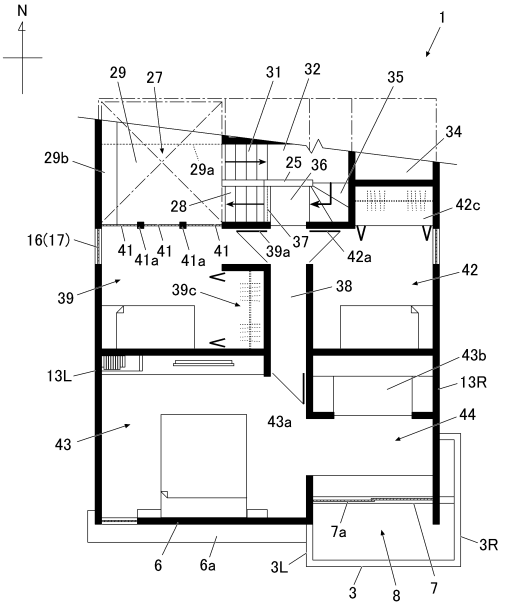
【図４】


N
1
24
18
26b
26
24b
25
25a
26a
26c
24a
15
23
27(28)
23a
22(主居室)
13R
CL
13L
21a
21
20b
3R
20a
12
9
9a
10(10c)
10(10d)
12
3L
20c
3
20
5
4a
4

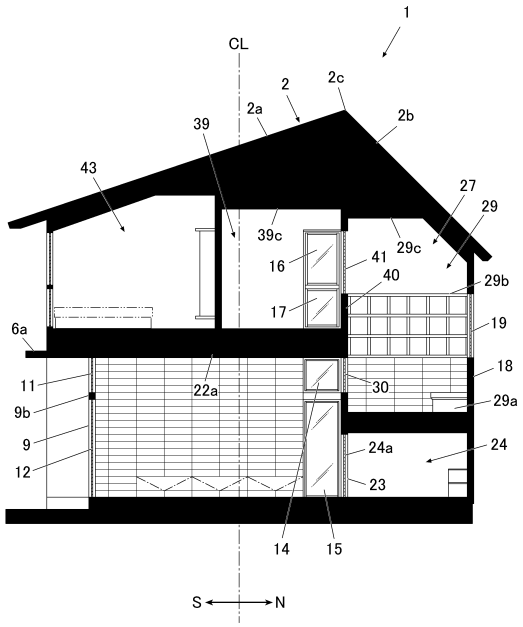
【図５】


N
1
19
27(階段室)
18
33
32
33a
34
29(踊り場)
29a
31
25
30
(第一室内窓)
30a
30
30a
30
28
35
14
13R
CL
13L
22
21
3R
6a
11
9
9a
11
3L
21b
3
20c
5

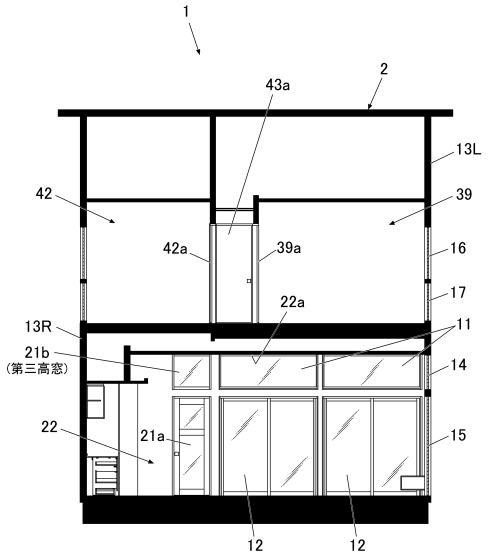
【図６】


N
1
29
27
31
32
35
34
29b
29a
25
36
28
42c
16(17)
41
41a
41
41a
41
39a
37
42a
42
39
39c
38
13L
43b
13R
43a
44
43
7a
3R
6
6a
3L
3
8
7

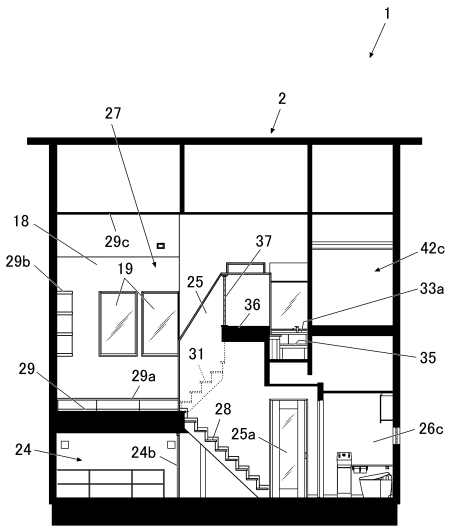
【図７】


1
CL
2
2c
2a
2b
39
43
27
29
39c
29c
16
41
40
29b
17
19
6a
18
11
22a
30
29a
9b
9
24a
24
12
23
14
15
S
N

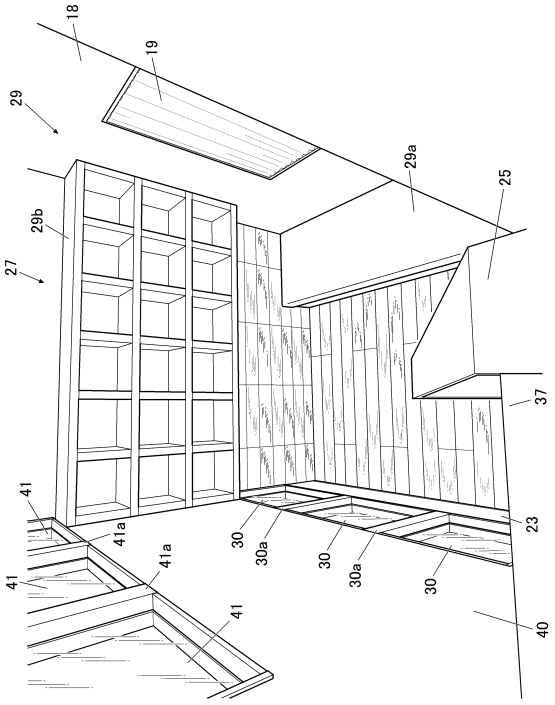
【図８】


1
2
43a
13L
42
39
42a
39a
16
17
22a
13R
11
21b
（第三高窓）
14
22
21a
15
12
12

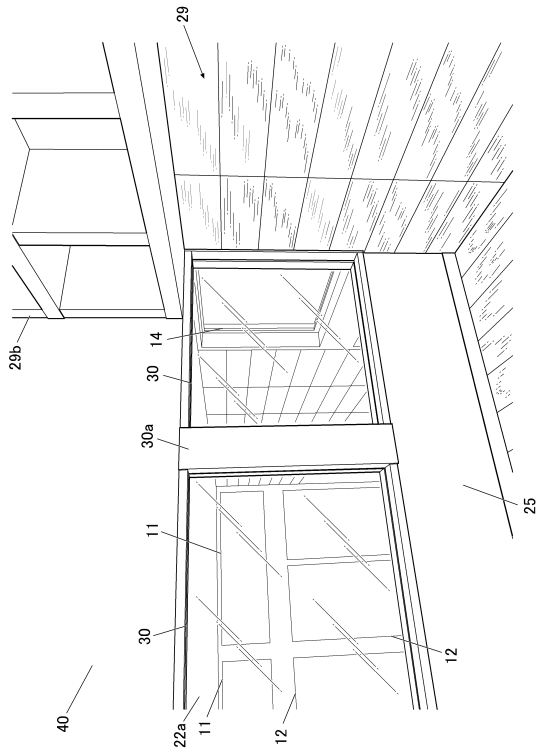
【図９】


1
2
27
18
29c
37
42c
29b
19
25
33a
36
31
35
29
29a
28
25a
26c
24
24b

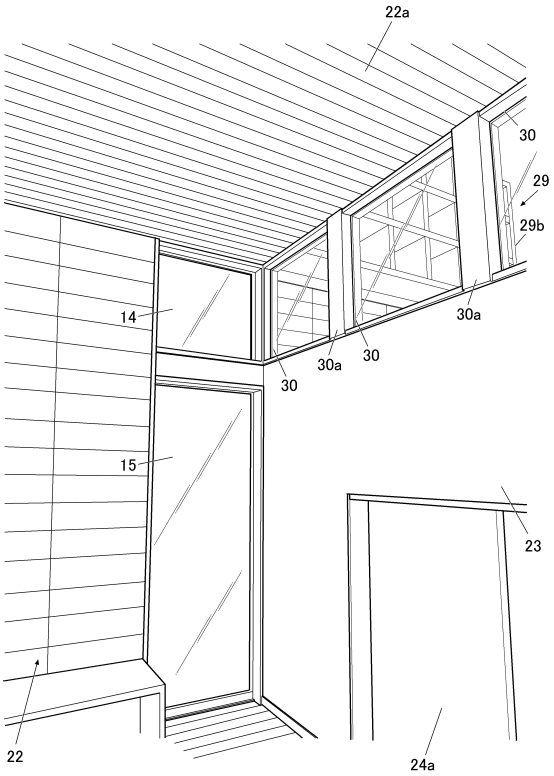
【図１０】


18
19
29
29a
25
29b
27
37
41
41a
30
30a
23
41
41a
30
30a
30
41
40

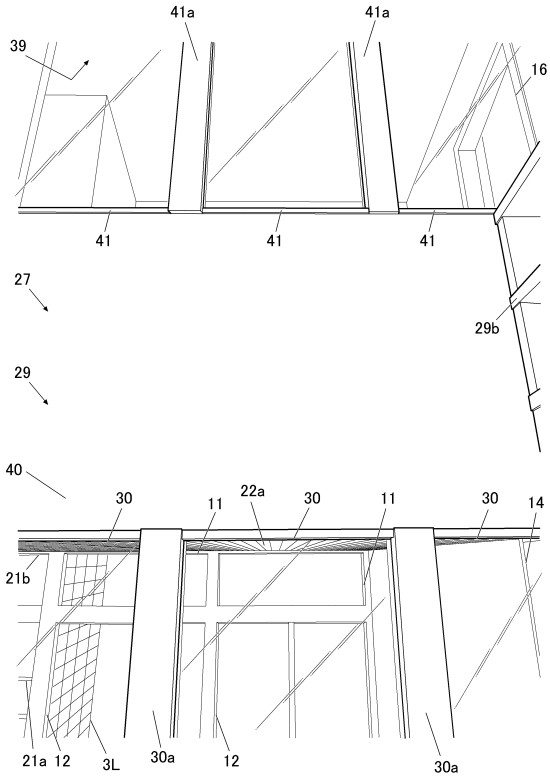
【図１１】



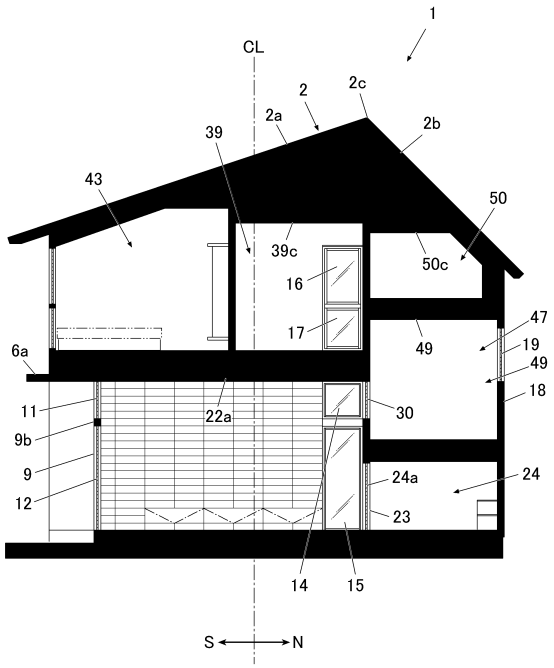
【図１２】



【図１３】



【図１４】



フロントページの続き

(56)参考文献　実開平０２－０７７２４２（ＪＰ，Ｕ）
特開２００５－３５０８８０（ＪＰ，Ａ）
特開２００２－１６７９８３（ＪＰ，Ａ）
特開２０１７－１９８０２４（ＪＰ，Ａ）
特開２０１５－２０３２９４（ＪＰ，Ａ）
特開２０１９－１６３５９５（ＪＰ，Ａ）
特開２０１８－１７２９３８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野　(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｅ０４Ｈ　１／０２
Ｅ０４Ｂ　７／０２